

## 生トウフ粕を多く含む飼料は 生乳中の共役リノール酸を高める

最近の配合飼料価格は、平成 24 年秋以降の飼料穀物価格の高騰・高止まりから落ち着きつつありますが、依然、畜産経営はひっ迫しており、食品製造副産物などを有効に活用し、飼料自給率を高めることが重要な課題になっています。しかし、トウフ粕は、高水分で変敗しやすく保存性に乏しいだけでなく脂肪含量が高いことから、乳牛への利用が進んでいません。そこで、山梨県酪農試験場では、東京都農業総合研究センター、栃木県畜産酪農研究センター、雪印種苗（株）および日大生物資源科学部との協定研究によって、生トウフ粕を活用して飼料乾物中の粗脂肪含量が日本飼養標準の基準値（5%）より高い飼料を乳牛に給与した場合の乳生産等に及ぼす影響について調査しましたので、その結果を紹介します。

### ☆ 技術の概要

1. 泌乳中期のホルスタイン種乳牛に、生トウフ粕を多く含み、トウモロコシサイレージ、大豆など油実を加えて調製した発酵 TMR（試験区；乾物中粗脂肪含量 6.1%）を 3 週間給与したところ、乳中の共役リノール酸の含量が、乾草にふすまや圧片トウモロコシを多く配合した通常の TMR（対照区；乾物中粗脂肪含量 5.0%）を給与した時に対し有意に増加しました。
2. 試験区および対照区の乳牛の体重、乾物摂取量、乳量乳成分および血液性状には、それぞれ区間に差が認められず、また、血液性状は正常値でした。



写真1 供試した生トウフ粕



写真2 調製した発酵TMR飼料

### ☆ 活用面での留意点

生トウフ粕は季節やロット、提供元工場の違い等により水分量をはじめとする成分に変動が大きいことから、事前に成分を調査して使用することが重要です。また、牛に異常が認められた場合はただちに給与を中止して下さい。詳しくは、山梨県酪農試験場乳肉用牛科（TEL0551-32-3216）にお問い合わせ下さい。

（日本政策金融公庫農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 加茂幹男）